

令和6年度消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）の成果及び評価報告書

1. 令和6年度消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金：ソフト事業）（令和6年度当初予算分）

目的	目標	事業実施主体	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 (円)	交付金 相当額 (円)	県による評価の概要
I 農畜水 産物の 安全性 の向上	農薬の適正使用 等の総合的な推進	和歌山県	農薬の不適切な販売及び使用の発生割合 目標値：0%	0%	100%	A	554,121	273,000	研修会の開催や、啓発資材の活用等により、農薬の使用者・販売者に対して、適正な取り扱いをするよう指導を行った。 農薬販売にかかる違反事例、農薬の不適切な使用事例は発生しなかった。今後も引き続き農薬販売者や使用者への指導に取り組み、農薬安全使用研修会や巡回指導等啓発の場において農薬の適正使用について重点的に啓発するなど、より徹底した周知を行うことで不適切な販売及び使用の発生率0%を維持する。
	海洋生物毒等の監視の推進	和歌山県	海洋生物毒のモニタリングの総実績数 目標値：117回	134回	114%	A	617,100	145,000	海洋生物毒のモニタリング総実施数の目標117回に対し、漁業・養殖業の実施状況を考慮して134回の調査・分析を行っており、目標回数を達成している。 漁場環境モニタリング体制や、貝毒検出時における出荷自主規制を要請する監視体制を継続することで、毒化した二枚貝の流通が未然に防がれており、水産物の安全性確保に貢献したことから、本事業は適切に実施できたと考える。 令和6年度は、県内において貝毒の発生はなかったが、瀬戸内海域では依然として貝毒が発生していることから、今後も二枚貝の安全性確保を図るため、各海域の漁業実態を踏まえた監視調査を継続して実施する必要がある。
II 伝染性 疾病・ 病害虫 の発生 予防・ まん延 防止	家畜衛生の推進	和歌山県	家畜衛生に係る取組の充実度 目標値：100.8%	133.4%	132%	A	6,259,973	2,866,000	取組の充実度については、目標値100.80%のところ実績値133.40%とすることができた。これは、各農場で問題となっている生産性を低下させる疾病や病原体に対し、実情に応じた指導・検査を行った結果、これらの被害低減に繋がったためと考えられる。一方で、豚や肉用鶏・採卵鶏においては、環境中や糞便からサルモネラが分離されていることから、食品の安全性を確保するためにも、消毒の徹底や野生動物の侵入防止対策などに引き続き取り組むよう、より一層の指導が求められる。
	養殖衛生管理体制の整備	和歌山県	養殖衛生管理指導を実施した経営体数の養殖等経営体総数に占める割合 目標値：100%	100%	100%	A	1,557,000	635,000	リモートや対面での会議や研修に出席し、積極的に情報収集を行うとともに、県内養殖衛生対策会議を書面開催し、すべての養殖経営体に魚病発生状況や水産用抗菌剤に関する情報提供を行った。 養殖衛生管理指導については、目標値である50経営体を達成し、養殖現場における衛生管理技術の向上を図った。また、魚病検査や種苗導入前の健康診断等の件数についても169件と昨年より22件多く実施するなど、魚病の発生予防・まん延防止に努めた。 以上のことから、本事業は適正に実施できたと考える。 今後も継続して、魚病の発生予防・まん延防止対策を行うとともに、安全な養殖生産物の供給を維持するため、巡回指導・水産用医薬品の適正使用指導等に努める。
	病害虫の防除の推進	和歌山県	従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等における防除に関する管理手法の現状値からの向上率 目標値：125%	125%	100%	A	1,371,547	680,000	①ピーマンうどんこ病に対して防除効果の高い薬剤を選抜し、各薬剤の散布回数、時期別の防除効果を明らかにすることことができた。また、研修会を通して生産現場へ周知し、目標を達成した。 ②薬剤抵抗性を有する産雄单為生殖型ネギアザミウマが県内で優先することと、複数の有効薬剤を明らかにすることことができた。成果は広報誌、現地指導を通じて生産現地へ周知することで目標を達成した。 ③カンキツ黒点病に対して効果の高い代替薬剤を2剤選定することができ、新たな防除体系を確立することができた。また、研修会を通じて生産現場への周知を行った。 ④カンキツのミカンハダニに対して抵抗性の発達に影響しない気門封鎖型薬剤を使用した従来より散布回数の少ない防除体系を確立することができた。また、研修会を通じて生産現場への周知を行った。 ⑤開花直前・開花終期散布の2回散布は、1回散布に比べ防除効果が高いことを明らかにした。指導員や生産者に向けて研修会などで周知を行った。今後はより省力的で効果的な散布時期と有効薬剤を明らかにしたい。 ⑥ウメのオウトウハダニに対して防除効果の高い薬剤として2剤選定することができ、効果的な防除体系を確立することができた。チラシの配布や説明により生産現場への周知を行った。今後は防除暦例への反映に向けて取組を進めたい。 ⑦サンショウウさび病の薬効葉害試験および作物残留試験を実施し、新規農薬適用拡大のための試験成績を作成し、農薬メーカーに提供することができた。適用拡大後は本薬剤を組み入れた防除体系の普及に取り組みたい。
総計・総合評価				114%	A	12,954,830	5,750,000		

目的	目標	事業実施主体	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 (円)	交付金 相当額 (円)	県による評価の概要
III 地域での食育の推進	和歌山県	栄養バランスに配慮した食生活の実践度 目標値：46.9%	81.4%	173%	A	1,666,100	823,460	小学生向けに作成した教材や解説資料等は、県のホームページ「食育ひろば」に掲載し、誰でも閲覧できるようとした。教育現場でのデジタル化も進んでおり、児童がタブレットを使用してホームページに掲載している県版食事バランスガイドの早見表を使用していた学校もあったため、今後ホームページをより活用しやすいものに改良し、食育に関わる情報を積極的に提供していく必要がある。 栄養バランスに配慮した食生活の実践度及び産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合において、アンケート調査では目標値を大きく上回る結果となったことから、効果的な事業であったと考えられるが、意識変容がしっかりと行動変容につながるよう、今後も継続的に働きかけをしていく。	
			農林漁業体験の機会の提供 目標値：150人	150人	100%	A			
			産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合 目標値：76.6%	87.6%	114%	A			
	わかやま市民生活協同組合	食文化の継承度 目標値：36.3%	100%	275%	A	116,120	57,540	食文化継承の講演会に参加した全員が、今後は食文化の継承を行っていく意思があり、産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合においても88%の方が今後そういった食品等を選ぶと回答しており、意識変容のきっかけづくりとなる取組として効果があったと考えられる。	
		農林漁業体験の機会の提供 目標値：150人	142人	94%	A				
		産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合 目標値：76.6%	88.5%	115%	A				
総計・総合評価				152%	A	1,782,220	881,000		

目的	目標	事業実施主体	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 (円)	交付金 相当額 (円)	県による評価の概要
特別交付型交付金									
II 伝染性 疾病・ 病害虫 の発生 予防・ まん延 防止	和歌山県	クビアカツヤカミキリ の発生抑制	クビアカツヤカミキリ の発生抑制	達成	適正	733,045	366,515	本事業の実施により、被害発生地域において春と秋に悉皆調査を実施し、新たな被害園に対する防除指導を行うことが出来た。指導により多くの被害園地では掘り取りやネットを巻く等の応急的な防除を行った後、被害樹を伐採することによりさらなる被害拡大を防ぐことが出来た。 また県内のモモ、スモモ、ウメ産地の生産者等に対して当害虫の防除対策の重要性について広く啓発、指導を行ったことで、生産者自身の意識醸成や行動変容につながることが出来ただけでなく、対策の重要性の周知によりその後の伐採等にスムーズにつながることができた。 引き続き当害虫の被害拡大を抑制するため、悉皆調査の実施による被害の拡大抑制と生産者に対する防除対策の啓発、指導を行う。	
	JA紀の里生産販売委員会クビアカツヤカミキリ対策協議会	クビアカツヤカミキリ の発生抑制	クビアカツヤカミキリ の発生抑制	達成	適正	5,874,060	2,937,030		飛翔性の高いクビアカツヤカミキリの防除では、地域での一斉防除により、成虫密度を下げることが重要である。本事業では、協議会構成員の生産者に対して防除対策の啓発を行ったうえで、地域一斉に薬剤散布を行っているため、防除を必要な時期に効果的に行うことができていると思われる。引き続き当害虫の被害拡大を防止するため、生産者への啓発および薬剤散布を次年度以降も継続して実施していただきたい。
	クビアカツヤカミキリ防除対策協議会	クビアカツヤカミキリ の発生抑制	クビアカツヤカミキリ の発生抑制	達成	適正	3,990,400	1,995,200		飛翔性の高いクビアカツヤカミキリの防除では、地域での一斉防除により、成虫密度を下げることが重要である。本事業では、協議会構成員の生産者に対して防除対策の啓発を行ったうえで、地域一斉に薬剤散布を行っているため、防除を必要な時期に効果的に行うことができていると思われる。引き続き当害虫の被害拡大を防止するため、生産者への啓発および薬剤散布を次年度以降も継続して実施していただきたい。
総計・総合評価				達成	適正	10,597,505	5,298,745		

2. 令和6年度消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金：ソフト事業）（令和5年度補正予算繰越分）

目的	目標	事業実施主体	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 (円)	交付金 相当額 (円)	県による評価の概要
特別交付型交付金									
II 伝染性 疾病・ 病害虫 の発生 予防・ まん延 防止	家畜衛生の推進	和歌山県	豚熱・アフリカ豚熱 のまん延防止	豚熱・ア フリカ豚 熱のまん 延防止	達成	適正	2,156,177	2,038,000	県内全域から効率的に検体を収集し、野生いのししの豚熱・アフリカ豚熱の浸潤状況を監視・把握するため、野生いのししの捕獲・検体採取・送付までの取組を推進した。令和6年度中に464頭を検査し、うち15頭の豚熱陽性を確認した。また、養豚場への豚熱・アフリカ豚熱のまん延防止のための指導に活用した。
総計・総合評価				達成	適正	2,156,177	2,038,000		